

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 地域医療構想の実現に向けた取組みの検討

- 国立病院機構では、徳島県の地域医療構想の実現に向けた取組みとして、東部構想区域に所在する「東徳島医療センター」と「徳島病院」の在り方について検討。
- 徳島県の将来あるべき医療提供体制の構築に向けて、特に国立病院機構として検討すべき課題は以下が挙げられる。

### 【徳島県の地域医療構想の実現のための検討課題】

1. 限られた医療資源を有効活用するための効率的かつ効果的な体制の検討
  - ・ 医療機能等の集約化による充実・強化
  - ・ 空床状況等を踏まえた病床数の適正化
2. 患者の療養生活を支える在宅医療等の提供体制整備の検討
  - ・ 徳島県の在宅医療等への移行促進に貢献できる事業の展開
3. その他、両病院が直面する課題の検討
  - ・ 医師をはじめとする医療従事者の確保・養成
  - ・ 老朽化施設の整備 等

## (参考) 東徳島医療センターと徳島病院の概要

病 院 名	東徳島医療センター	徳島病院
病院所在地	徳島県板野郡板野町 大寺字大向北1-1	徳島県吉野川市鴨島町 敷地1354
2次医療圏 (1.5次医療圏)	徳島県東部保健医療圏 (徳島県東部Ⅰ保健医療圏)	徳島県東部保健医療圏 (徳島県東部Ⅱ保健医療圏)
地域医療構想区域	徳島県東部構想区域	徳島県東部構想区域
許可病床数	330床(一般310床、結核20床)	300床(一般300床)
稼働病床数	276床(一般256床、結核20床)	300床(一般300床)
病床機能別病床数	急性期40床、回復期60床、慢性期156床、 結核20床	慢性期300床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科 計12科	内科、神経内科、呼吸器科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科 計12科
医 師 数	常勤医師数 19人	常勤医師数 15人
主な医療機能	重症心身障害医療(短期入所を含む) 呼吸器疾患医療(結核を含む) 一般医療(急性期～回復期) 等	神経・筋疾患難病医療 ポストNICU ロボットリハ、スポーツ整形 等

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 地域医療構想の実現に向けた取組みの検討

### 《特に留意すべき課題の検討①》

- 東徳島医療センターは重症心身障害医療(156床)、徳島病院はポストNICU(8床)を実施しているが、徳島大学からの小児科医の派遣が両病院に分散しており、小児科の体制充実のためには、両病院の小児科領域での集約化が有効。
- 両病院の小児科の集約化と併せて、徳島大学病院等の周産期医療施設がその機能を効果的に発揮できるための支援として、当該施設の長期入院患者を療養・療育できる体制の拡充を図ること(ポストNICUの増床)が必要。
- 東徳島医療センターは回復期病床(60床)を有しており、リハビリテーションの充実が望まれる一方、ロボットリハビリテーション等の先駆的なリハビリテーションは徳島病院が実施しており、両病院のリハビリテーション領域での集約化により回復期から先駆的リハビリテーションまで一体的に実施する体制を整え、その充実を図ることが必要。  
※ リハビリテーションの体制(平成29年4月現在)  
東徳島医療センター:PT4名・OT2名、徳島病院:PT10名・OT4名・ST3名
- 両病院のリハビリテーションの集約化と併せて、徳島県東部構想区域における在宅医療等の推進に貢献できる事業を推進することが必要。

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 地域医療構想の実現に向けた取組みの検討

### 《特に留意すべき課題の検討②》

□ 重症心身障害(児)者や神経・筋疾患難病患者等の高齢化に伴う合併症等への対応が急務となっており、徳島大学病院等の高度急性期医療機関との一層の連携強化等を図り、東徳島医療センターと徳島病院がこれまで担ってきた重症心身障害医療、結核医療及び神経・筋疾患難病医療について、引き続き提供していくことが必要。

※ 全国の病院の病床数に占める国立病院機構の病床数のシェア

重症心身障害:37.0%(平成28年4月)

筋ジストロフィー:95.5%(平成29年4月)

結核:36.6%(平成27年10月)

□ 徳島大学(病院)との連携強化や両病院が提供する専門医療等の集約化により、医師等が多様な臨床経験を積むことが出来る環境を整え、徳島県の医師等の育成に寄与することが必要。

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 地域医療構想の実現に向けた取組みの検討

### 《特に留意すべき課題の検討③》

□ 両病院の医療機能等の集約化や現在の空床状況、近隣病院の状況等を踏まえて、一定の病床数を削減し、適正化を図ることが必要。

※1 病床が全て稼働していない病床 東徳島医療センター: 1個病棟(54床)

※2 病床利用率(平成28年度実績) 東徳島医療センター: 83.7%、徳島病院: 79.8%



(東徳島医療センター)



(徳島病院)

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 対応方針(医療機能の充実・強化等)

- ◎ 両病院の果たすべき役割や地域における医療提供体制の在り方、地域への貢献度等を検討した結果、東徳島医療センターの地に徳島病院の医療機能等を移転・統合し、医療機能の集約化による充実・強化と病床数の適正化等を図ることとしたい。

### <医療機能の集約による充実・強化>

- ◇ 徳島病院が実施しているポストNICUについては、東徳島医療センターの重症心身障害病棟の空床利用により、更なる拡充を図る(8床→12床程度)。  
※ 東徳島医療センター重症心身障害病棟の病床利用率(平成28年度実績) 91.4%
- ◇ リハビリテーションについては、他の医療機関や介護施設等との更なる連携により、特に神経・筋疾患や脳血管疾患にかかるリハビリテーションを展開するとともに、地域のニーズに合わせたリハビリテーションを幅広く展開していく。
- ◇ 通所リハビリテーションや障害児(者)を対象とした訪問看護の後方支援を行うことで、徳島県東部構想区域における在宅医療等の推進に貢献していく。

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 対応方針(医療機能の充実・強化等)

### <患者の療養環境の向上>

- ◇ 機能統合に際しては、東徳島医療センターの敷地内に病棟(デイケア棟を含む)を整備するとともに、診療科数や患者数の増に対応できる外来管理治療棟及びサービス棟の改修・増築等も行い、患者の療養環境を向上させる。
- ◇ 徳島大学病院等の高度急性期医療機関等との連携や集約化に伴う機能充実を図り、筋ジストロフィーをはじめとする神経・筋疾患難病患者や重症心身障害(児)者の高齢化に伴う合併症等に一体的かつ適切に対応していく。

### <徳島県における医療レベルの向上に貢献>

- ◇ 機能統合後の病院施設については、医師、看護師及びメディカルスタッフの「育成・研修の場」として提供し、徳島県の医療レベルの向上に貢献していく。

### <病床数の適正化>

- ◇ 両病院の医療機能等の集約化に併せて、一定の病床削減をする。

# 東徳島医療センターと徳島病院の機能再編案について

～ 将来あるべき医療提供体制の構築に向けて ～

## 対応方針(病床数の適正化)

◇ 今後、徳島病院の入院患者・家族等への希望調査等を踏まえ、最終的な病床数を決定

	機能統合後 (病床数のイメージ)		機能統合前			
			東徳島医療センター		徳島病院	
機能別 病床規模	急性期	40床 一般	急性期	40床 一般	慢性期	60床 一般
	回復期	60床 地域包括ケア	回復期	60床 地域包括ケア		
	慢性期	156床 重症心身障害 ※ポストNICU12床を含む	慢性期	156床 重症心身障害	慢性期	240床 神経・筋難病 ※ポストNICU8床を含む
		200床 神経・筋難病				
	結核	20床	結核	20床		
計	476床 (医療法476床)	計	276床 (医療法330床)	計	300床 (医療法300床)	
診療科	内科、 <u>呼吸器内科</u> 、循環器内科、消化器内科、神経内科、外科、呼吸器外科、整形外科、小児科、泌尿器科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科		内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、呼吸器外科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科		内科、神経内科、呼吸器科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科	
	計 15科		計 12科		計 12科	

注1 両院の慢性期病床は、主に重症心身障害(東徳島医療センター)、神経・筋難病(徳島病院)を対象とした病床

注2 診療科名(下線)は、「広告可能な診療科名の改正について(平成20年3月厚生労働省医政局通知)」により変更





- 徳島病院から東徳島医療センターまでは直線距離で約17km(車で約30分)
- 徳島病院から徳島大学病院までは直線距離で約18km(車で約35分)
- 東徳島医療センターから徳島大学病院までは直線距離で約9km(車で約18分)

(参考)

# 独立行政法人国立病院機構の概要

## 我が国最大の病院ネットワーク

○ 平成16年4月1日に国立高度専門医療研究センター及び国立ハンセン病療養所を除く国立病院及び国立療養所が独立行政法人化

1. 病院数：142病院（平成29年10月現在）
2. 病床数：約5.1万床（全国シェア約3%）
3. 職員：約6.1万人

## 国立病院機構のネットワーク

### 《5疾病5事業》

**【がん】**  
医療計画記載85病院  
がん診療拠点病院36病院

**【心筋梗塞】**  
医療計画記載64病院

**【脳卒中】**  
医療計画記載94病院

**【糖尿病】**  
医療計画記載71病院

**【精神疾患】**  
医療計画記載45病院  
認知症疾患医療センター12病院

**【救急医療】**  
医療計画記載113病院  
救命救急センター20病院

**【災害医療】**  
医療計画記載58病院  
災害拠点病院36病院

**【へき地医療】**  
医療計画記載15病院  
へき地拠点病院9病院

**【周産期医療】**  
医療計画記載61病院  
総合周産期5病院、地域周産期21病院

**【小児医療】**  
医療計画記載89病院

### セイフティネット系（民間では提供困難な医療）

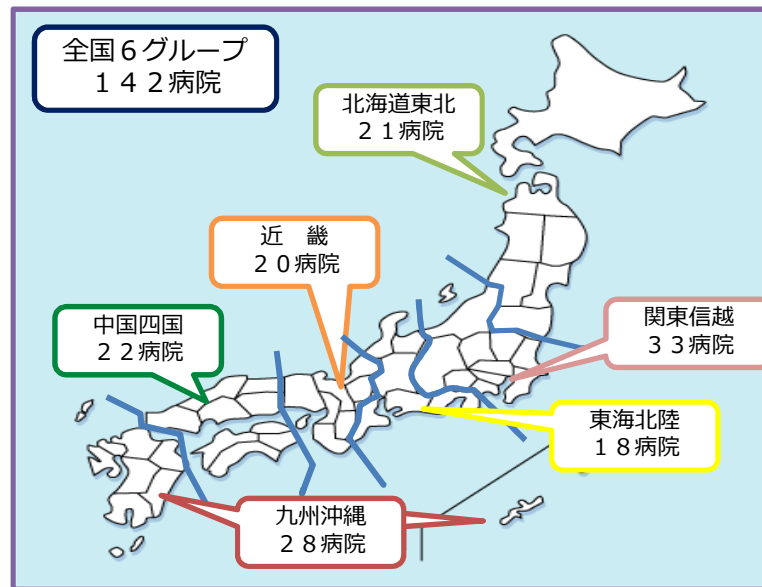
【重症心身障害】

【筋ジストロフィーをはじめとする神経・筋疾患】

【精神科医療】

【結核】

【エイズ】



### セイフティネット系のシェア

	国立病院機構	
	病床数	シェア
① 心神喪失者等医療観察法に基づく入院	421床	43.8%
② 筋ジストロフィー	2,341床	95.5%
③ 重症心身障害	7,793床	37.0%
④ 結核	2,009床	36.6%

※（時点）①：平成28年12月、②：平成29年4月、③：平成28年4月、④：平成27年10月

### 東日本大震災への対応

○ 医療班など延べ約1万人日の職員を被災地に派遣し、切れ目のない医療支援活動を実施  
 〈主な支援活動〉  
 被災地での巡回診療、メンタルヘルスケア、福島第一原発事故に伴う警戒区域への一時立入りにおける中継基地での医療活動 等

### 新型インフルエンザへの対応

○ 厚生労働省の要請に基づき、全国の検疫所等へ、  
 ・医師延227人日、  
 ・看護師延272人日を派遣  
 ○ 新型インフルエンザワクチンの治験等を迅速に実施し、有効性安全性を検証